



No.105  
March  
2025

# やまだらけ

YAMADARAKE

## BEANS 小さな自然科学者をささえる人々



BEANSは総合的な学習の時間を使い、早川町立早川北小学校の児童たちが取り組む野外自然観察活動のことだ。

BEANSはBEcome A Natural Scientistの略で、意味は「自然科学者になろう」学校に隣接する南アルプス野鳥公園を活動の場としている。

活動のはじめは、3年生以上の児童が公園に生息する動植物を対象に、自分の知りたいことを見つける。次にどのように調べたらよいか考える。12月には調べたことをまとめ、翌年2月にたくさんの方の前で発表する。指導に当たるのは、早川北小学校の先生たちと野鳥公園のネイチャーガイドさんだ。

2016年度(平成28年度)から始まり今年度2024年度(令和6年度)で8年目になるBEANS。2019年(令和元年)には公益社団法人山梨科学アカデミーから児童生徒科学賞を受賞、今年度には優良PTA文部科学大臣賞を受賞した。

今号では、BEANSに取り組む児童をささえる人々を紹介したい。

上流研の取り組みを応援頂いています!

地域発展のお手伝い! 地域の暮らしを守る!

**早邦建設株式会社**

早川町役場新庁舎

【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 645-27  
TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288  
【生コンクリートブランド】TEL.0556-45-2700  
<http://www.soho3000.com/>

毎分 1,630ℓ 湯温 52℃の掘削自噴火温泉では日本唯一を誇る新湯湧出  
全てのお風呂、客室風呂、給湯、シャワーに至るまで 源泉掛け流し

全館源泉掛け流しの宿

西山温泉 **慶雲館**

〒409-2702  
山梨県南巨摩郡早川町西山温泉  
TEL 0556-48-2111  
FAX 0556-48-2611 <http://www.kefuncan.co.jp>

早川町で感動体験を...  
南アルプス生態邑  
光源の里温泉 ヘルシー美里  
南アルプス野鳥公園

ご予約・お問い合わせ  
TEL/0556-48-2621  
<http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/>

いろいろたべもの  
シルエットから、なんの食べものかあてよう!  
美しいイラストで描かれたクイズ絵本。

1430円(税込)

作成社 東京都新宿区市谷砂土原町 3-5  
TEL 03-3260-3221 作・絵 内田有美

早川町特産品  
早川町観光PR

早川町の魅力を東京で発信します!

～お気軽にお問い合わせください。～  
ANNIVERSARY CONCIERGE  
アンバーサリーコンシェルジュ  
TEL : 03-5823-4043

南アルプス街道の交通安全と  
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに  
地域社会の発展に貢献する事を目指します。

早川砂利協同組合

山梨県南巨摩郡早川町小縄 26  
電話 0556-45-2450

広告主募集

上流研では、本スペースまたは裏表紙に広告主を募集しています。

やまだらけ発行	広告料金	大きさ	データ形式
年4回(予定)	年間22,000円 (出版社さま年間33,000円)	幅63mm、高さ41mm	aiデータ(アウトラインしたもの) またはpdfデータ

ご関心のある方は下記問い合わせ先(NPO法人日本上流文化園研究所)までお気軽にご連絡ください  
電話:0556-45-2160 Eメール:info@joryuken.net

『やまだらけ』バックナンバーはこちら▶  
<https://fm-hayakawa.com/fm/yamadarake>



山を覗けば宝の山

編集後記

「BEANS」は、北小の先生方や野鳥公園の方々を始め、多くの人々のさきさきによって続いてきた。子どもたちが主体的に考え、発見する機会を得られるのは、大人たちの根気強い関わりがあるからこそ。こんな学びの場が自分の子ども時代にもあったら、と羨しくなる。この経験は子どもたちの未来を切り開く力となり、発見する楽しさは生きる糧となっていくのだろう。

発行元 / NPO法人日本上流文化園研究所  
住所 / 山梨県南巨摩郡早川町葉袋430  
Tel.0556-45-2160  
Fax.0556-45-2268  
ウェブサイト  
<https://joryuken.jimdofree.com/>



# BEANS 小さな自然科学者をささえる人々



BEANSの野外での活動の様子

文  
浜田 尚子

自然を知らない子どもたち

**B** EANSが始まるきっかけの二つは、「山村留学」(※1)だ。移住者を増やしたいという町の依頼を受け、辻元町長・元北小の校長先生と大西さんが話し合いをした。その中で見つかった課題が「自然の中で暮らす児童が身の回りの自然のことを知らない」ということだった。

そこで、早川の豊かな自然を通して郷土愛を育むことができる、野外自然観察授業が提案された。

2014年(平成26年)には、早川町をはじめとする3県10市町村が「南アルプスコネクトエコパーク」(※2)に登録された。

BEANSが始まった

**2** 016年(平成28年)に総合学習BEANSが北小と野鳥公園の共同で始まった。それから8年後の2024年(令和6年)。野鳥公園から大西さんをはじめ、松本哲矢さん、渡邊和司さんがネイチャーガイドを担当。北小からは早川町生まれで町在任の小野哲理先生がBEANSを受け持った。

横澤敏英校長先生は、全体の運営を安全に進められるように気配りする。

野鳥公園と北小は、役割分担が細かく決められている。担当がうまくいかない時は、学校と野鳥公園の打ち合わせ担当が活躍する。

今年度のパイプ役は小野先生だ。

BEANSの野外活動の拠点は、野鳥公園だ。この時注意

ニックネームは「フイーヨ」

**2** 008年(平成20年)早川町にやってきた大西信正さん。町からの依頼で、南アルプス野鳥公園とヘルシー美里(宿泊施設)の管理運営を任されている所長さんだ。この仕事について17年になる。

大西さんは町に来る前は宮城県の金華山島で、18年もの間ニホンシカの研究をしていた。大西さんのニックネームは「フイーヨ」。それはオスシカの繁殖期の鳴き声だ。「過疎化した山村でのシカの食性―山梨県早川町の事例―」

の調査報告書を共同で執筆するなど、町に来てからも山に生きるシカの社会を見守り続けている。

金華山島で培った大西さんの自然を理解する視点や自然観は、町にも活かされている。例えば耕作放棄地を「生きものいっぱい農園」に変えたこと。ほかに町内に生育する特定外来種オオキンケイギクの駆除を町民に呼びかけ対策を進めている。

そして取り組んだのが早川北小学校(以後、北小)の「BEANS・自然科学者になろう」だった。



渡邊 和司さん

BEANSの野外での活動の様子



松本 哲矢さん

BEANSの野外での活動の様子

するのがお天気だ。例えば大雨が降った後はヒルが出やすいので、日程を変更する時もある。猛暑になりそうな日は事前に気温をチェックし、時間をずらすなど配慮を怠らない。活動の判断は学校だ。

1年間の活動の始まりは5月。BEANSの大きな目的は、児童が「生きる力」を養うことだ。「生きる力」それは、科学的な思考を育むことだ。まず課題を見つけ解決のための思考をする。そして得られた結果をみんなで共有し、さらなる課題に挑戦することだ。大西さんが説明してくれた。

「課題を見つけるのは、はじめは難しく、こちらで設定することもあります。また、課題ではなく対象の生き物を決めることもあります。とりあえず自然を観察することを大事にしています」

課題の見つけ方は児童二人人が違っている。年度の途中で課題を変える子がいれば、6年生までの4年間ひたすら獣道を調べる児童もいる。大西さんは「答えをせせらずに児童の発見を待ちたい」と、考えている。

早川町の風景

横澤 敏英  
校長先生



小野 哲理  
先生



BEANSと子どもの成長

**B** EANSを学びながら、子どもたちはどんなふうになるのだろうか。小野先生に聞いた。

2年生の時、ある児童が千葉県から山村留学してきた。虫が苦手だった。ところが3年生になりBEANSで選んだ題材はトゲアリ。背中にあたるトゲや胸の明るく鮮やかな色に「かっこいい」と、魅かれてしまった。公園での観察活動では、まずトゲアリの巣を探した。トゲアリは木の根元や朽木に巣を作る。根気よく探して、とうとう見つけた。そして4年生のBEANSもトゲアリを選んだ。ところがトゲアリはいつの間になくなってしまった。「冬眠したのかな」と、考えたがいなくなったのは9月だ。小野先生は「9月に冬眠するのかな」と、疑問を投げかけた。すると児童は気温を調べ始めたのだ。そして気温と冬眠は必ずしも関係がないことに気づき「敵に襲われて減ってしまったのかもしれない」と、いろいろな可能性を考え始めたのだ。その後季節ごとのトゲアリの変化も調べ始めた。

横澤校長先生は、子どもたちが継続して調べる力を育てていることや、粘り強く課題に向かう姿に素晴らしいさを感じている。

学校の特色ある教育活動BEANSを、北小のPTAも応援している。2024年度(令和6年度)には優良PTA文部科学大臣賞を受賞することになった。横澤校長先生は、「次につなげたいという思いがあった。受賞は本当に嬉しい」と喜びを語った。



上・左・下  
BEANSの野外での活動の様子



トゲアリ



BEANSの野外での活動の様子

BEANSの未来

**2**

2025年(令和7年)2月21日、北小におおぜいの人が集まった。BEANSの発表会だ。BEANSをささえる北小の教職員のみならず、野鳥公園の所長大西さんをはじめとする、ネイチャーガイドのみなさん、保護者のみなさん、早川町教育委員会の方々、早川町役場関係の方々が集まり、子どもたちの発表に耳をかたむけた。子どもたちは1年を通じて追いかけたそれぞれのテーマを、パワーポイントやタブレット端末などを駆使して発表する。その横顔はもう立派な自然科学者だ。

8年間の児童のBEANS発表を見続けてきた大西さんは振り返る。

「活動中は大きな発見が無かったような児童がいた。ところが発表を見ると、児童が調査の時に感じたことや、発見したこ

とがとてもよくわかり、感動したことがある」

そしてBEANSへの願いも話してくれた。

「子どもたちが早川町の自然を、少しでも好きになってほしい。そうすれば南アルプスの自然の保全・保護が必要になった時は、きつと科学的な思考で行動してくれるに違いない」

学びの多い総合学習BEANS。早川町にとどまらずBEANSで育まれる生きる力が全国の子どもたちに広がることを心から願っている。



※1 早川町の「山村留学」とは、都市部など他地域からの家族を受け入れサポートする制度。移住した家族は地域と関わりながら暮らし、子どもは自然豊かな町の小・中学校で教育を受けられる。